

第3回寝屋川市高齢者保健福祉計画推進委員会 要旨

日 時 令和2年10月15日 14:00～15:20

場 所 市立保健福祉センター 5階会議室1・2

出席委員 安藤委員 入江委員 香川副委員長 金田委員 金城委員 澤田委員
仙波委員 高橋委員 多田羅委員長 谷口委員 中川委員 丸山委員
山崎委員 脇田委員（名簿順）

欠席委員 なし

本日の委員会における新型コロナウイルス感染拡大防止対策の説明（3密を避けるよう委員の配席を見直すとともに開催時間を短縮して縮小して開催（地域包括支援センター代表者の出席は見合わせ）

南福祉部長あいさつ

平素は本市高齢者保健福祉行政の推進にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、本日はお忙しいなかご出席いただき感謝する。今年度は、次期高齢者保健福祉計画の策定年度である。本市では人口に占める高齢者の割合が、現在、約30%となっており、いっそう高齢化がすすんでいる。このようななか、介護予防、重症化防止の取り組みの推進や地域包括ケアシステムの強化充実など、2025年を見据えた計画の策定が必要となってくる。忌憚のないご意見をいただくようお願いする。

委員紹介（新たに就任された安藤委員、脇田委員が自己紹介）

委員出席状況の報告（委員14名全員の出席により、会議が成立したことを報告）

事務局紹介（事務局職員が自己紹介）

案 件

- 1 現計画の進捗状況について
- 2 地域包括支援センター実績報告について
- 3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の結果報告について
- 4 次期計画の骨子（案）について
- 5 今後のスケジュールについて

（委員長）

本日の委員会は、感染症対策により開催時間を短縮するよう事務局に依頼されているので、よろしく願います。資料説明も簡潔に行い、意見や質問は一括して伺うことにしたいと思います。（事務局 配付資料の確認、資料1～9に基づき説明）

〔補足事項〕

- ・資料2の平成31年度保険給付費が計画値より若干低いのは、要介護認定の人が少なかったことが一因だと考えている。
- ・資料3で軽度の方の認定率が計画値より高くなっているのは、比較的元気な前期高齢者が多かったことや介護予防の取り組みが主な原因だと考えている。
- ・資料5について、特別養護老人ホームの入所対象は要介護3以上であるが要介護2以下の方が念のために申し込むケースも一定あり、地域包括ケアの推進を図り、状況にあったサービスを必要なときに利用できるよう周知をすすめていく。

- ・資料6で、高齢者虐待対応として被虐待者と虐待者を分離した事例では、介護保険施設入所ややむを得ない事由による措置での分離、医療施設への入院等の対応を、また、分離していない事例では、養護者への助言、介護サービスプランの見直しや新たなサービスの導入などを行っている。各地域包括支援センターでは、地域性に応じて住民や事業者との連携ネットワークの構築や介護予防に取り組んでいる。障害者への合理的配慮として、車いすで入室できないセンターもあるが積極的に自宅訪問による相談対応に取り組むとともに、手話による制度説明や相談に障害福祉課の職員と連携して対応した事例もある。
- ・資料7の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査は前回の調査と同様の傾向が見られ、引き続きニーズや課題の把握に努めていく。
- ・資料9について、次期計画は現行計画を継承しつつ、市総合計画や市地域福祉計画との連動性を考慮するとともに、よりわかりやすくなるよう見直しを行っている。「目標を実現するための取組み」と「重点的に取り組む事項」はさらに検討を行う予定であり、本日の委員会でのご意見をふまえ、11月の委員会で計画素案をお示ししたい。

(委員長)

感染症対策として1時間で会議を終えるようにとのことなので、ご協力をお願いしたい。質問や意見がある方がおられるか。特になければ、座長の独断だが限られた時間を有効に使うよう、順番に各委員から1人1分以内で意見をいただきたい。今回は質問は1つに絞り、さらにある方は事務局に個別に質問してほしい。

(委員)

いちばん地に足がついた情報は地域ケア会議にあると思っているが、開催されていないということで、ポイントとなる情報が抜けているのではないか。これまでの経験知だけでなく、新たな今の状況に即した情報が市にあるのか。あるのであれば開示してほしいと思う。

(事務局)

年度末に開催している圏域の地域ケア会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大で今年度は中止したところがあるが、その他の会議は開催しており、一定の地域の状況は地域包括支援センターで把握している。

(委員長)

地域ケア会議の議事録を読んでもらえればわかると思うが、どこにあるのか。

(事務局)

市全域と圏域の会議は議事録を作成し、参加者に配付して情報を共有している。また、圏域の会議の議事録は地域包括支援センターで見いただくことができる。なお、市全域の会議でご意見としていただいた「通いの場」について10月から新たなしくみをつくるなどの取り組みを行っている。

(委員)

資料が多過ぎてどこに注目すればよいかかわからないが、虐待についてどこまで市に報告すればよいか、私たちも困るところである。

(委員長)

虐待についての記録はどこにあるのか。件数だけでなく、内容についての記録もあるのか。私は虐待の内容に非常に関心があるが、主な内容としてどのようなものがあつたか。

(事務局)

虐待への対応は、市と地域包括支援センターが連携して検討会議を行って書類を作成しており、個別のケースの記録は市と地域包括支援センターで保管している。比較的多く発覚して対応するのは身体的虐待であり、例えば、事業者が訪問したときに頬が赤いので、家族に聞くと叩いていたなどの事例がある。

(委員長)

高齢者虐待は非常に大事な問題だと思うので、主な事例を次回の委員会で示してほしい。

(委員)

これから介護保険が総合事業に移行されていくが、介護を受けたくてもできない介護難民をつくらないでほしいということが、私たちのいちばん大きな願いである。また、国でもデジタル庁をつくってIT化をすすめる方向となっている。寝屋川市では事業所の実地指導で5年分の介護記録を紙で見せるよう指導されるが、ほとんどの事業所はハードディスクに記録を保存しており、重要事項説明書や契約書なども膨大な量になっているので、モニターで見て指導するなどのIT化をすすめ、無駄な紙をなくしてほしいと思う。

(委員長)

貴重なご意見をいただいたと思うので、方策があれば次回の委員会で回答してほしい。

(委員)

社協も含め福祉や介護の現場で対応に携わる職員の確保がとても厳しい実態があるが、資料1の「福祉や介護のサービスの担い手」に書かれている小中学生を対象とした取り組みは将来に向けた投資的なものなので、次期計画では、もう少し福祉や介護の仕事をしたいという魅力につながる取り組みを期待したい。

(委員長)

具体的なかたちで記載してほしいということなので、事務局で検討してほしい。

(委員)

簡略化した説明でわかりにくかったので、次期計画でいちばん重点的に変えていきたいポイントを説明してほしい。

(事務局)

前期の計画から2025年に地域包括ケアをつくっていくことをめざしているので、次期計画でまったく新しい項目が増えるわけではなく、現行計画をふまえて地域包括ケアの推進を図っていくが、資料9で「重点的に取り組む事項」としてあげた「介護予防・重度化防止の取組み」などの3点に力を入れて、さらなる推進を図っていきたいと考えている。

(委員長)

何か希望されることがあるか。高齢者の歯科について困っていることはないか。

(委員)

歯科医師会としては、高齢者の健康づくりのなかで、口腔内の健康について市と力をあわせて取り組んでいきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。現状では、必要な人のところに医療やケアがなかなか届いていないと思うので、より密に連携したい。

(委員長)

歯科医師会からも、してほしいことを具体的に書いて出してもらえるとありがたい。

(委員)

そのようにさせてほしいと思う。

(委員)

介護者の会に相談に来る人はアドバイスをすると納得されるので、さきほど話の出た介護難民を防ぐために、地域包括支援センターを小学校区やもっと地域に寄り添うようにつくってほしいということが、大きな夢である。

(委員長)

市は介護難民について、状態を把握しているのか。

(事務局)

市としては、全数の調査を行ったわけではないが、地域包括支援センターからそうした相談はなく、現状でサービスの利用を希望されてもできない方はおられないと考えている。

(委員長)

市も、認識していないわけではないが現実に上がってはいないということだが、どうか。

(委員)

私たちの会でも、今のところは把握していない。

(委員)

地域包括支援センターはあらゆる市民が相談する場所だと思うが、障害者にとっては未だに距離がある。車いすでは行けなかったり、足が悪くて階段を上がれない高齢者も多いので、差別解消の視点も含め、事業所をつくる時には、最低限、エレベーターを必須条件とすることをお願いしたい。手話ができる人がいないので1人は置き、視覚障害の人の手引きをする人もいてほしい。

(事務局)

市としても65歳以上のすべての方が利用しやすいことが大事だと認識しており、すぐに改善することは難しいが、今後の取組みのなかで念頭に置いてすすめていきたい。

(委員長)

具体的な取組みのプランがあれば、次期計画に記載してほしい。

(委員)

民生委員としていろいろな個別の要望をお聞きして地域包括支援センターにつないでおり、センターに行けば手続きを教えてもらえるが、例えば、社協が車いすの貸出をしていることなどを介護を受ける前の段階の一般の高齢者の方は知らないで、周知してほしい。私の地域では試験的に乗合いワゴンが運行されているが、あまり知られておらず利用者も少ないので、もっと効率的に周知し、利用できるかたちにしてもらえればと思う。

(事務局)

地域包括支援センターについては、市の広報紙やホームページ等を通じて周知している。

(委員長)

広報紙を見ていない高齢者がいくらでもいるが、そうした人はどうするのか。

(事務局)

見ていないと言われるとしんどいところがあるが、校区福祉委員や民生委員などにも参加していただいて各地域包括支援センターで会議や勉強会を開くなどして、活動をご案内している。

(委員長)

勉強会は非常に大事だが、どのような方法や頻度で行っているのか。

(事務局)

中学校区や小学校区、自治会エリアなどの既にある会議に、地域包括支援センターが出席しており、毎月参加している地域もある。地域との関係性などによって違いがあり、統一はされていないが、できるだけ地域の方に関わるようにして、口コミで広がっているのが現状である。

(委員)

高齢介護室がいろいろな事業を行っていることに感謝しているが、あまり知られていないので、私たちもできるだけ多くの人に説明したいが、広報でもその都度知らせてもらえると嬉しいと思う。広報も隔々まで読んで、わからないことがあれば問いあわせをするように呼びかけていきたい。元気アップ介護予防ポイント事業には私も参加させられており、施設を回ることも勉強になる。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止が多かったが、施設の側だけでなく活動する方も元気になり、相互の交流もあるので、終息すればうまく利用してもらえるとよい。

(委員長)

わかりやすいものを充実してほしいということである。

(委員)

私は地域の老人会と自治会に関係しているが、資料1にも書かれている「関心が低い人」や「閉じこもりの人」への対応に今まで以上に注力してもらい、よい方策を見出してもらえるとありがたいと思う。老人会や自治会で会報をつくっても読んでもらえない人がかなりおり、市が発信する情報も、自分のことと思っていない人がいる。広報を読まず、10月号に掲載された

交通系 I Cカードの補助のことも半分ぐらいの人は知らないなので、広報を読める工夫をしてほしいという気がしているが、具体的な方法は思いつかない。

(委員長)

どうすれば広報を読んでもらえるかは、市もいちばん頭を痛めていることだと思うので、よい案があれば市に言ってあげてほしい。また、市も広報の充実のための具体的な方法を、できれば計画に記載してほしいと思う。

(委員)

ニーズ調査で、介護・介助が必要になった原因は認知症とパーキンソン病とがんをあわせて15.5%だが、この人たちには手厚い介護が必要である。一方、半数近くを占める骨折・転倒や高齢による衰弱はなんとかなる部分である。自立支援をすすめないと重度の方を助けることができないので、来年度以降もしっかりやってほしい。これは、行政が中心となり、事業者団体も力をあわせてやっていきたい。

(委員長)

自立支援は大事であり、自立支援を育てる体制を市でも検討してほしいということである。

(委員)

次期計画で重点的に取り組む事項として介護予防・重度化防止があげられており、ケアマネジャーとしてもしっかり押さえて取り組んでいるが、がん、認知症、パーキンソン病などでどうしても介護が必要な人の介護度が意外に低く、必要なサービスが受けられないことがある。先日、認知症などがあり要介護5だったのが自立になった方がおられ、家族も納得がいかないので不服の申請をしたが、時間がかかり、その間はサービスが受けられずに介護難民になる。市はあまり把握していないということだが、現場では本当に苦勞しており、介護予防・重度化防止をすすめるなかでも、介護が必要な方のことを見過ごさないほしい。また、ケアマネジャーの対応の方法についても提案してほしい。

(委員長)

市は一所懸命はやっているが、現場を知らず提案できないので、現場の方から市に食いついて提案しないといけない。

(委員)

そんなことをすると市に嫌われると思うケアマネジャーもおおり、だれもがそのようにできるかという問題があるが、相談に行ったら一緒に考えてほしい。

(委員長)

市の人も人間なので腹が立ったり嫌ったりするが、一所懸命であることは間違いないので、ケアマネジャーにはそこに食いついてほしい。

(委員)

食いついていけるように、連絡会としても取り組んでいきたい。

(委員長)

それが大事であり、ともに一所懸命に取り組めるようにしてほしい。また、要介護5が自立になったような具体的な事例については、市もしっかり検討してほしい。

それでは、少し時間が延びてしまったが、最後に副委員長から一言お願いしたい。

(副委員長)

コロナ禍でイベントや会議がほとんど中止になっているなかで、本日の委員会が開催されたことは非常に意義があると思う。市は各委員から出た意見を受け止めて、次に活かしてほしい。コロナ禍でデイサービスなどを休んでいる人が相当おられ、足腰が弱ったり認知症の心配もある。上手につきあいながら、過度に恐れずやるべきことをしていかないとコロナ以外の問題も出てくるので、医師会としては、かかりつけの先生とも相談しながら上手にやってほしいと考えている。

(委員長)

市は、市民の萎縮を予防するために何かしているか。

(事務局)

事業所に対しては、国の通知などを的確に伝えて衛生管理に気をつけたうえで、市としては特に制限を設けずに適切に利用できるよう案内を行っている。ケアマネジャーにも国の通知を渡し、利用者の状況に応じた対応をしてもらうようお願いしている。

(委員長)

市民の自粛の実態について、委員はどのように感じているか。

(委員)

私の主観的な意見だが、私たちも7月ぐらいまでは手も足も出なかったが、市が発信するデータやいろいろな報道を日々見ながら、副委員長も言われたができることはやっていくよう、感染防止対策を行い、参加者にも協力していただいたうえで、何ができるかをずっと話している。先日の老人クラブ連合会主催の市長杯グランドゴルフ大会には250人が集まったが、参加者が喜ぶ顔を見るほど嬉しいことはなく、私も元気をもらっている。役員会で何かしようと話をすると反対意見も出て、もし陽性者が出たら会長が責任を取れるのかという後ろ向きの議論になるが、それぞれが判断し、自己責任で参加するという通してしている。

(委員長)

市民は萎縮しているので、だれかが呼びかけないといけない。日本人は慎重で、言われた以上に自粛する国民のような気もする。

本日は委員長の独断ですすめさせてもらったが、積極的に意見を出していただき感謝している。市は各委員のご意見を確認し、それに応えるかたちで計画策定をすすめるよう、当然のことだがよろしく願います。

私の意見を言う時間はないが、先に話が出た高齢者虐待は大事な問題であり、意外と多いと聞いているので、本委員会でも事例を紹介してもらい、まず、虐待のない高齢化の時代になるよう市も留意してほしい。

6 その他

(事務局)

次回の委員会は11月17日（火）を予定している。やむを得ず欠席される場合は事務局までご連絡いただくようお願いする。

(閉会)